

第 13 回診断病理サマーフェスト-病理と臨床の対話 婦人科腫瘍の病理と臨床 開催報告

熊本大学病院病理診断科 三上芳喜 (第 13 回診断病理サマーフェスト世話人)

【日時・会場・参加者】

第 13 回診断病理サマーフェストは、2019 年 8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日)の 2 日間にわたって東京慈恵会医科大学 2 号館講堂で開催されました。334 名(別途キャンセル待ち 19 名)の参加申し込みをいただき、当日は 311 名が出席しました(欠席 3 名、キャンセル及び未入金は 20 名、ハンドアウトのみの申し込みは 27 名)。参加者の内訳は一般が 219 名、研修医・大学院生が 81 名、細胞検査士が 11 名でした。所属内訳としては、病理所属が 289 名、病理以外では、内科 2 名、産婦人科 11 名、放射線科 8 名、所属不明 1 名の計 22 名であり、その 22 名の身分内訳は一般 18 名、研修医・大学院生 4 名でした。

【内容の概要(企画の趣旨、特色、感想など)】

2007 年の第 1 回で婦人科腫瘍をテーマとして開催して以来、肺、軟部腫瘍、消化管、脳腫瘍などの主要臓器を一巡し、第 13 回では再び「婦人科腫瘍の病理と臨床」を取り上げ、卵巣、子宮体部、子宮頸部腫瘍の病理診断のポイント、診断に必要な臨床的事項、画像診断に関する知見を、臨床の第一線で活躍をされている病理医、婦人科医、放射線科医の先生方にお話しいただきました。第 1 回から 12 年余りが経過し、その間 WHO 分類第 3 版(2003 年)が第 4 版(2014 年)となって婦人科腫瘍の病理組織分類や用語、概念が大きく変わり、分子遺伝学的知見が集積されてきたことから、病理医の講師の方々には最新の病態理解を踏まえた解説をいただくよう企画しました。また、婦人科医の先生方にはガイドラインに準拠した診療と病理診断の位置づけについてお話しいただきました。画像診断については特に病理学に造詣が深い放射線科医を招請し、豊富なマクロ写真、組織像を供覧しながら、画像診断のポイントについてご講演いただきました。時間的な制約もあることから、稀少腫瘍ではなく日常の診療で問題となる common disease に焦点を絞りましたが、各セッションでは、参加者と講師の先生方との間で活発な質疑・応答と議論が行われました。参加された方々からは最適な婦人科腫瘍診療に必要な事項についての理解を深めることができよかったという感想を多くいただきました。ご参加の皆様、講師、サマーフェスト委員、病理学会事務局の方々、および会場世話人としてご協力をいただいた東京慈恵会医科大学病理学講座の鷹橋浩幸先生をはじめスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

【プログラム(演題名と演者)】

2019 年 8 月 31 日(土)

卵巣腫瘍：上皮性腫瘍の診断のポイント(帝京大学医学部附属病院病理部 笹島ゆう子)

卵巣腫瘍：上皮性腫瘍以外の比較的頻度が高い腫瘍(東京慈恵会医科大学病理学講座 清川貴子)

卵巣腫瘍のマクロと画像(がん研究会有明病院画像診断部 田中優美子)

婦人科医から病理医に求めること(国立病院機構仙台医療センター産婦人科 新倉 仁)

卵巣腫瘍の術中迅速診断(岡山大学病院病理診断科 柳井広之)

内膜癌-診断のポイント(岡山大学病院病理診断科 柳井広之)

子宮体部間葉系腫瘍(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科 安田政実)

子宮体部腫瘍の画像診断(がん研究会有明病院画像診断部 田中優美子)

子宮体部腫瘍の診断と治療(岩手医科大学医学部産婦人科 馬場 長)

2019年9月1日(日)

子宮頸部腫瘍の病理－診断のポイント(熊本大学病院病理診断科 三上芳喜)

子宮頸部細胞診－ベセスダシステム2014(京都大学医学部附属病院病理診断科 南口早智子)

子宮頸部腫瘍の画像診断(倉敷中央病院放射線診断科 小山 貴)

子宮頸がんの診断と治療(横浜市立大学医学部産婦人科 宮城悦子)